

## 令和4年度長野県工業技術総合センター外部評価委員会 評価結果

令和4年8月25日に、工業技術総合センター精密・電子・航空技術部門において、長野県工業技術総合センター外部評価委員会を実施しました。その目的や評価等については下記のとおりです。

### 1. 外部評価委員会の目的、実施方法

長野県工業技術総合センター（以下「センター」という。）では、外部から評価を受けることにより、より効率的・効果的に事業を推進できるようにすることを目的として、長野県工業技術総合センター外部評価委員会設置要綱（以下「設置要綱」という。）及び長野県工業技術総合センター外部評価委員会実施要領（以下「実施要領」という。）を定め外部評価委員会を設置しています。

本年度においては、企業等から求められているセンターの役割や存在意義を再認識し、今後のセンター運営方針の策定に資するため、平成17年度※から令和3年度までのセンターの業務実績概況を委員へ説明し、センター利用者の視点から見たこれまでの支援への評価、長野県産業の持続的発展に向けたセンター運営について委員から意見をいただきました。

〔※長野県情報技術試験場、長野県工業試験場、長野県精密工業試験場及び長野県食品工業試験場を統合して長野県工業技術総合センターを設置〕

### 2. 委員

設置要綱第4条に基づいて、次の方々を外部評価委員に委嘱しました。また、委員の互選により、委員長には美濃輪智朗委員、副委員長には堀政則委員が選出されました。

令和4年度 外部評価委員名簿（50音順）

氏名 (敬称略)	所属機関・役職	備考
小澤 吉則	一般財団法人長野経済研究所 理事・調査部長	
小野 大輔	信濃化学工業株式会社 代表取締役社長	
柄木田 豊	柄木田製粉株式会社 代表取締役社長	
近藤 毅幸	株式会社関一精機 代表取締役社長	
戸谷 典孝	株式会社アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン 代表取締役社長	
堀 政則	株式会社協和精工 取締役会長	副委員長
美濃輪 智朗	国立研究開発法人産業技術総合研究所 社会実装本部 副本部長	委員長

(令和4年8月25日 開催時)

### 3 内容

- (1) センター業務実績概況説明
- (2) 意見聴取「利用者視点による支援の評価について」
- (3) 施設見学（精密・電子・航空技術部門）
- (4) 意見聴取「長野県産業の持続的発展に向けたセンター運営について」

### 4. 委員からの評価・意見の概要

- (1) 利用者視点による支援の評価について
  - ・ 新材料やクレーム事案が生じた際に原因究明のための駆け込み寺的な存在で、最新の技術動向も提供してもらえる
  - ・ 下請型から提案型にステップアップし自社製品を売り込むためには、材料や測定方法の信頼性を確保しなければならず、その存在・役割が重要
  - ・ 技術的課題を一緒に探ることで、センター側もレベルアップしている
  - ・ I o T 導入支援ではよく対応してもらっている。一方、情報サービス業は、自社やベンダーへの相談で解決しており、あまりセンターを利用しない
  - ・ 企業の変化に比べ、センターは「なかなか変化しない」というイメージ
- (2) 長野県産業の持続的な発展に向けたセンター運営について
  - ・ センターの存在をもっと周知していく必要がある
  - ・ センターについて、銀行の営業担当者に向けた勉強会を復活すべき
  - ・ (活用が進んでいない業界を含め) 業界団体等と、技術支援をテーマに協議をしてみると、違うことが生まれる可能性がある
  - ・ (公的機関の多くが) 内向きな、待ち仕事になっている。自ら現場に出て情報をとりにいくべき。新たなテーマが生まれれば、モチベーションもあがる
  - ・ 技術だけではモノにならない難しい時代。「経営」という視点も入れた研究員の教育体制が整備されるとよい
  - ・ 何か新しいものを作れる支援があるとよい。(センターは他に比べ、一過性ではない継続的な支援を受けやすい)
  - ・ 大学との連携はさらに広げていくことが大切
  - ・ (最先端だけでなく) 中堅の企業が稼げるようにするのもセンターの役割
  - ・ (食品で) 品目に特化した専門的な支援ができる人材の育成をお願いしたい
  - ・ 職員の本当の気持ちを聞き出すことが重要。好調な民間企業では社員アンケートを行っているところも多い
  - ・ DX等の情報化では力を借りたい